

みやざきし さいせい かのう
宮崎市は再生可能エネルギーの
ゆうこう りよう とりく
有効利用に取り組んでいます



Q 再生可能エネルギーって聞いたことある？

A 自然の中にある、太陽光・風力・水力・地熱・バイオマスなど、それまで何も使われず消えていっていたものを用いて電気などに生まれ変わらせることができるエネルギー源やその電気のことです。

Q 宮崎市はどんな有効利用をしているの？

A 宮崎市の下水処理場では、バイオマスのひとつの下水汚泥から発生するガスを有効利用して発電をしています。発電した電気は、下水処理場にある機械などを動かす電力にしています。電気代の節約に役立っています。

Q どれくらい発電をしているの？

A 発電機は、宮崎処理場と大淀処理場の2か所にあつて、1年間で約340万キロワットアワー、みんなの家庭で1年間に使う電気の約940世帯分にもなります。

Q ところで、バイオマスってなに？

A バイオマスは「太陽エネルギーを蓄えた生物体」を意味する用語です。石油系ではなく動植物由来の有機物をエネルギー源として利用するのがバイオマスエネルギーです。下水処理場では、下水汚泥が下水の中の有機物のかたまりなのでバイオマスです。

Q きれいに処理された水も有効利用しています。

A 下水からきれいに処理された水は、ほとんどが川や海に戻されますが、一部は、公園のせせらぎ水路や池の水として有効利用しています。



Q たくさん溜まる泥も有効利用しています。

A 下水のバイオマスである下水汚泥は、ガスを取り出して発電に有効利用するだけでなく、ガスを取り出した後に残る泥を乾燥させて肥料にしています。肥料は、1袋15キログラム入り60円でみなさんに販売しています。化学肥料と違って自然にやさしい肥料なので大好評です。



Q 全国では、まだまだ新しい有効利用の技術開発がたくさんおこなわれています。

A 最近では、下水汚泥を工場などの石炭に変わる燃料にしたり、下水汚泥から取り出すガスから水素を生み出して、水素自動車の燃料にしたりするなど新しい有効利用の技術開発が盛んにおこなわれています。下水道の未来は、再生エネルギーを生み出す工場になると言われています。



大淀処理場 消化ガス発電機